

HPVワクチン地域ブロック拠点病院 事業の取組について

愛知医科大学 疼痛医学講座

愛知医科大学病院 疼痛緩和外科・いたみセンター

牛田享宏

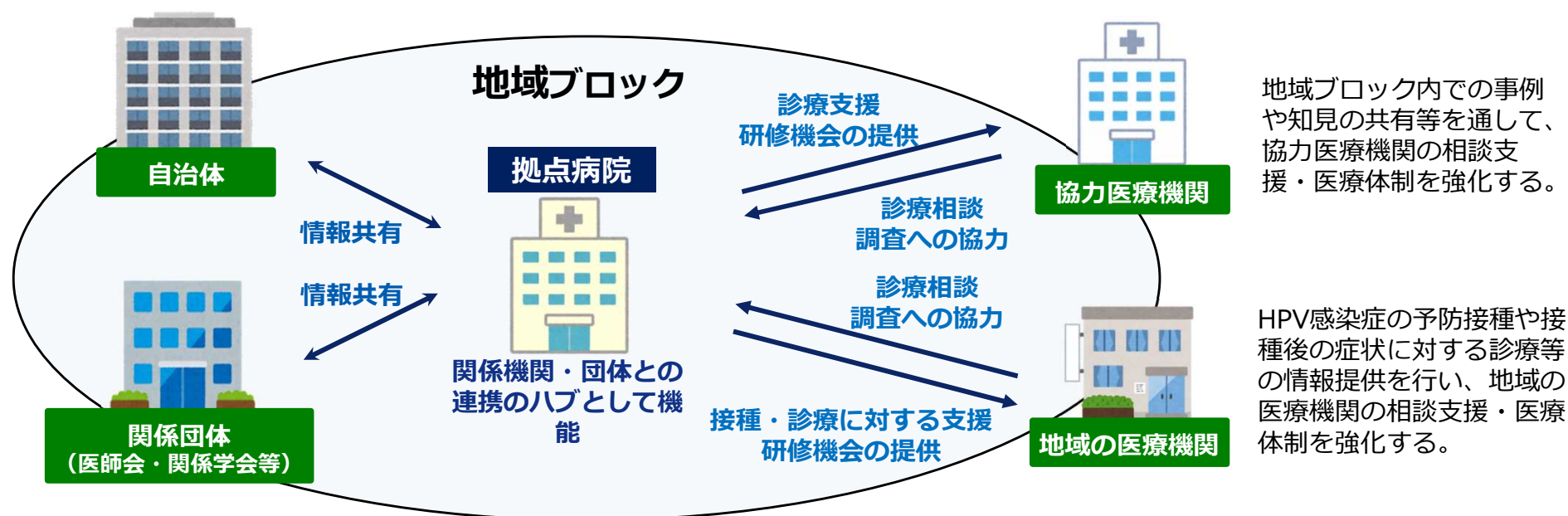
HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための 地域ブロック拠点病院整備事業（概要）

目的：ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の予防接種を進めるにあたって、協力医療機関の中から、地域ブロック別に拠点病院を設け、HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制の強化を図る。

事業内容

日本全国を10ブロックに分け、地域ブロック別に拠点病院（1～2医療機関）を選定する。拠点病院は、医療機関・自治体・関係団体等との連携のハブとして、下記のような役割を担う。

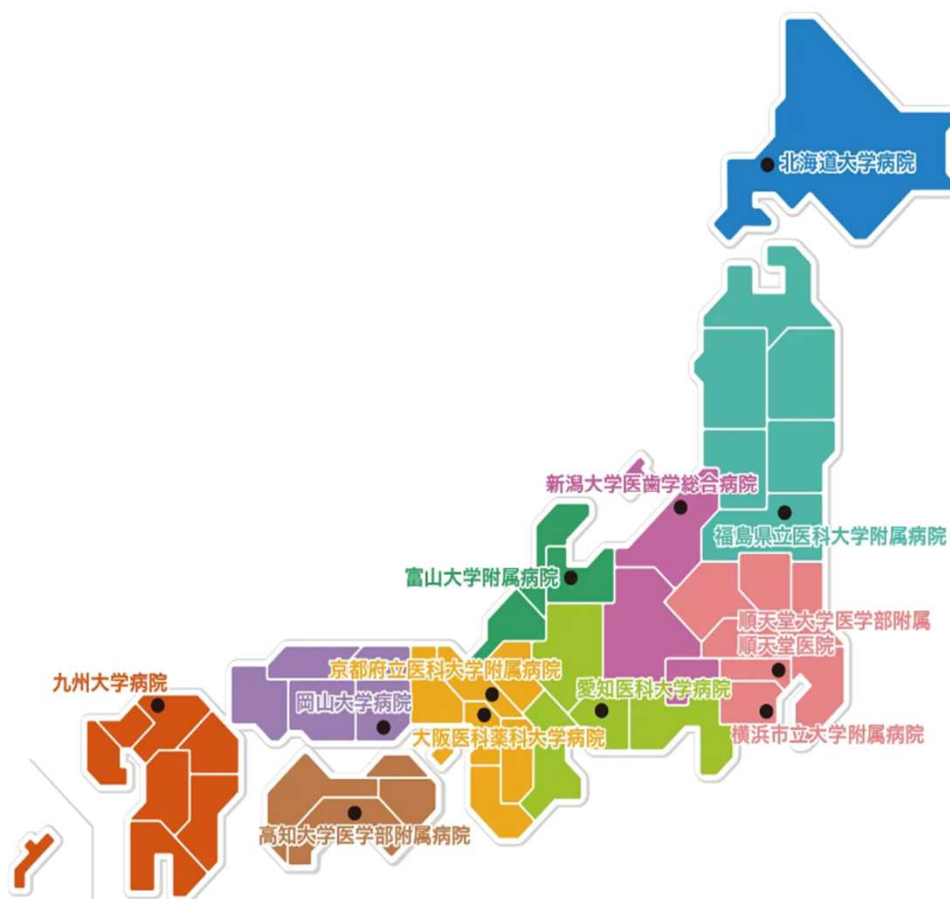
- ・ 協力医療機関や地域の医療機関との連携を構築し、研修会等の実施を通して、協力医療機関の診療支援・地域の医療機関に対する情報提供を行い、よりよい診療体制の構築に寄与する。
- ・ 都道府県・市町村・医師会・学校関係者・予防接種センター等との連携を構築し、情報共有を行う。



注) 協力医療機関とは、ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関を指す。

令和5年度 地域ブロック拠点病院

全国を10ブロックに分け、計12病院を地域ブロック拠点病院に選定。



全国協力病院一覧

ブロック	実施機関
北海道	北海道大学病院
東北	福島県立医科大学附属病院
関東	順天堂大学医学部附属順天堂病院
関東	横浜市立大学附属市民総合医療センター
甲信越	新潟大学医歯学総合病院
北陸	富山大学附属病院
東海	愛知医科大学病院
近畿	京都府立医科大学附属病院
近畿	大阪医科薬科大学病院
中国	岡山大学病院
四国	高知大学医学部附属病院
九州・沖縄	九州大学病院

※令和5年度の拠点病院一覧です。

拠点病院は、医療機関・自治体・関係団体等との連携のハブとなり、下記の活動を行っている。

- **連携体制の構築と情報提供**
 - 医療機関・医療従事者との連携
 - 教育関係者との連携
 - 情報提供活動（動画・リーフレット等の作成）
- **厚生労働科学研究班との連携**
 - ワクチン接種後の症状に対する研究に対する協力
- **協力相談支援・医療体制の強化**
 - HPVワクチン診療マニュアル作成の支援
 - 協力医療機関向け研修会（厚生労働省主催）の実施支援

連携体制の構築と情報提供活動

<医療機関・医療従事者との連携>

- 定期の連絡会を開催し、ブロック拠点病院と協力医療機関で、顔の見える関係性を作ることによりよい連携体制をつくる。
- 医療者間で接種後症状による受診状況や、症例経過を共有し、診療に役立てる。
- 研修会を開催し、接種前からの対応や接種留意点、接種後副反応の考え方等の知見を共有する。

Web情報共有掲示板の活用



<教育関係者との連携>

- 接種対象者の多くが、学校教育を受けている世代であるため、教育現場との連携が重要である。
- 自治体の教育委員担当と調整し、研修会や資料配布等の啓発活動を行う。
- 厚労省を通じて、文科省から本事業への協力依頼に関する事務連絡を教育委員会宛に発出するとともに、学校関係者向けの情報提供資料を作成。

情報提供資料 (動画・リーフレット等) の作成



<情報提供活動>

- 接種対象者および保護者等にもわかりやすい一般向け情報提供
- 接種対象者の多くをかかえる教育現場への情報提供
- 接種にあたる医療者サイドのサポート連携



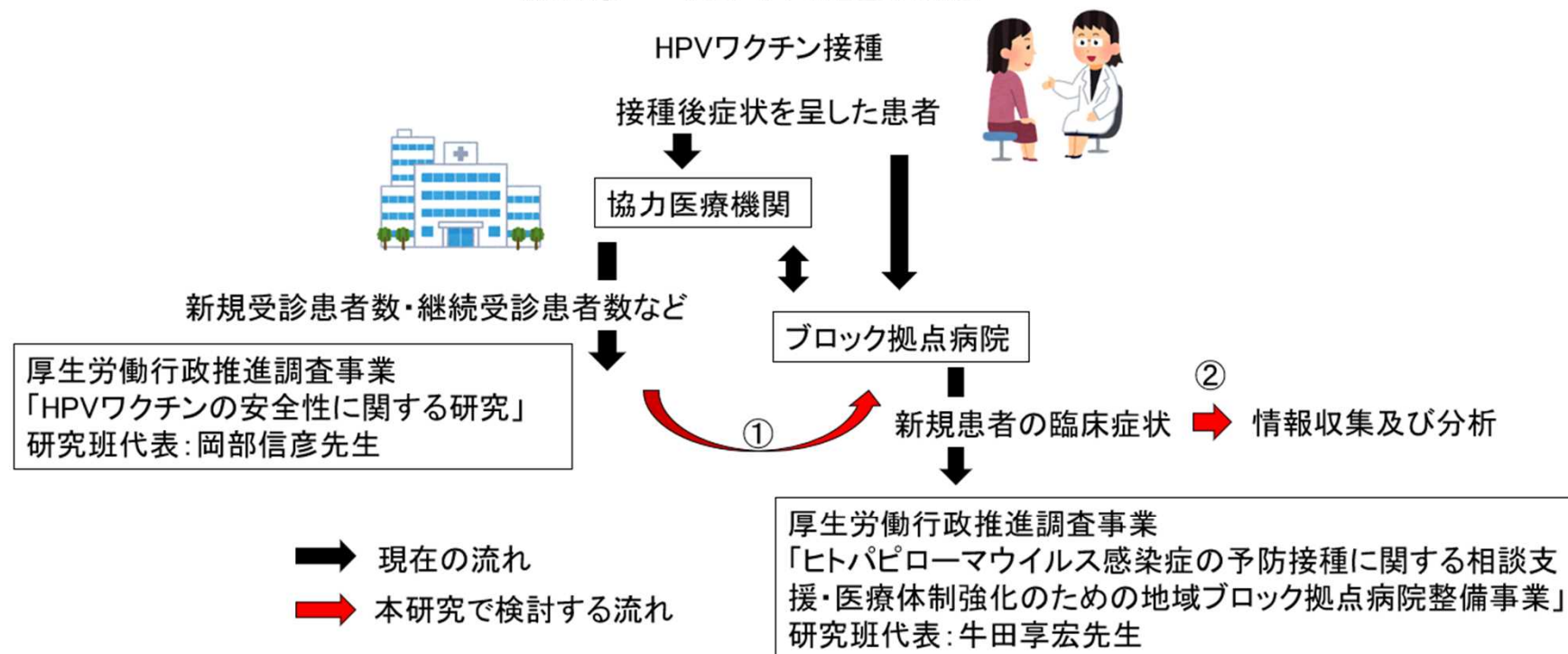
研究班との連携

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

- HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究（研究代表者：西原真理）
- HPVワクチンの安全性に関する研究（研究代表者：岡部信彦）

<西原班との連携>

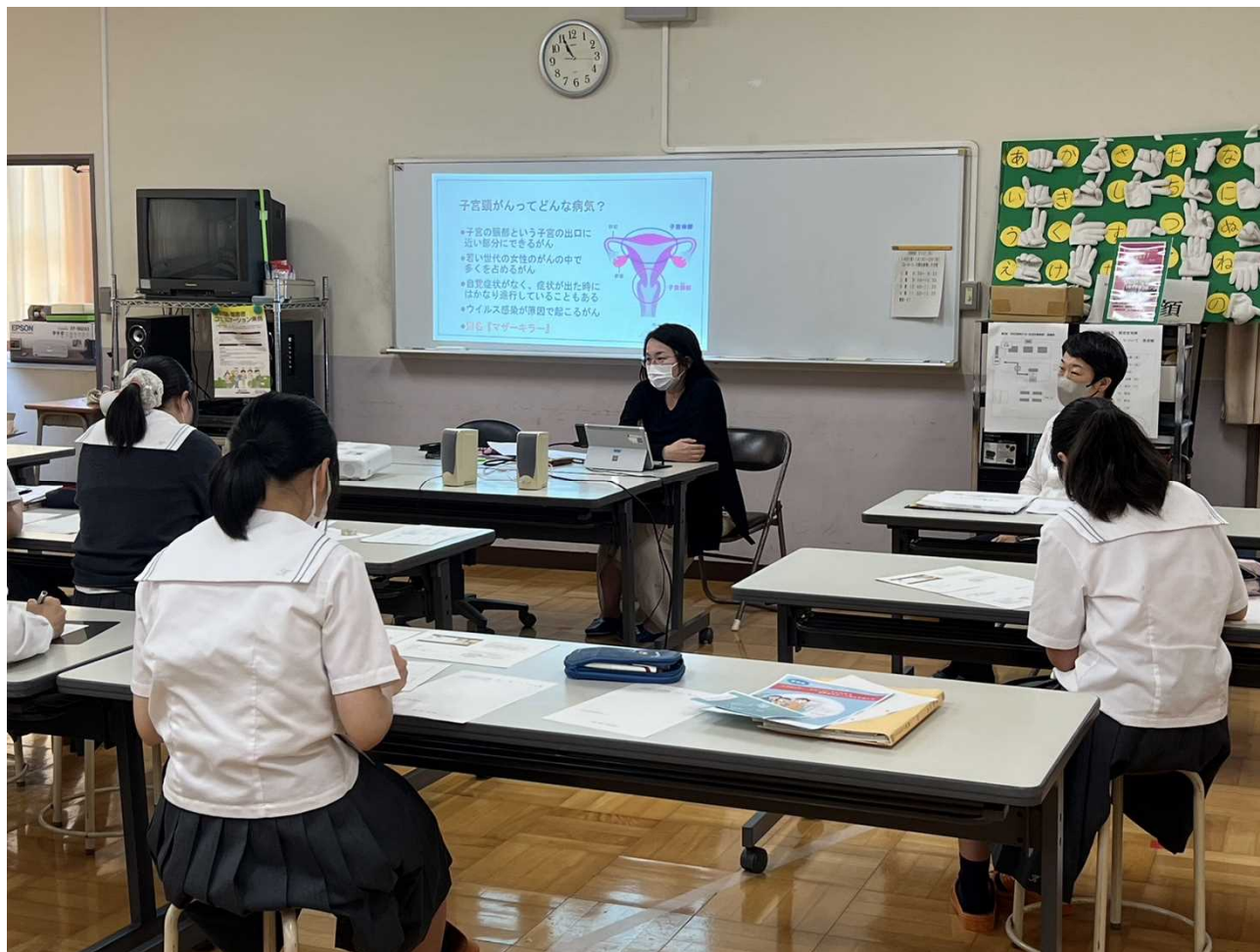
HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究
概要② ～他の研究班との関連



- ① 「HPVワクチンの安全性に関する研究」で行われている患者調査
→ 協力医療機関で発生した患者についての情報を共有
- ② ブロック拠点病院を受診した患者についてその臨床症状を調査・分析する

教育現場における啓発活動

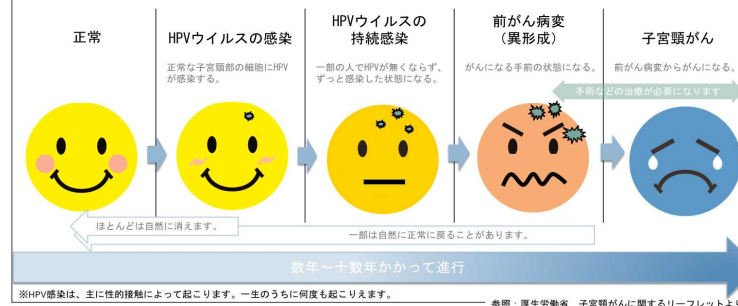
- 高等学校のがん教育授業の中における子宮頸がんおよびHPVに関する講義
- 養護教諭を対象とした研修会



子宮頸がんの原因は？

- 子宮頸がんのほとんどがヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルスの感染で生じる
- HPVは200種類以上のタイプ（遺伝子型）があり、子宮頸がんの原因となるタイプが少なくとも15種類あることがわかっている

子宮頸がんの進行



子宮頸がんで苦しまないためにできること

(一次予防)
ウイルス感染を防ぐ

ワクチン



(二次予防)
早期発見をする

検診

20歳～ 2年に1度



子宮頸がんを予防する大切なワクチン

今、あなたに読んでほしい！

HPVワクチンキャッチアップ接種と子宮がん検診で子宮頸がんを予防しよう！

子宮頸がんってなに？

子宮とは、女性の1人の女性の生殖器で子宮頸がんとは、子宮の約30%にがんになっています。

子宮は女性のお腹の中の赤ちゃんが育つ場所です。この子宮の内部には、がんが子宮頸がんといふ病気です。最近では、がんの予防に効果的といわれています。

がんの予防として、HPVワクチン接種があります。

進行すると子宮の癌化などの出現をします。



子宮頸部

子宮体部

がんは子宮の癌化を指します。

HPV(ヒトパピローマウイルス)ってなに？

HPVは通常は健康にもたらすことがありますが、子宮頸がんの原因の一つでもあります。

多くのHPVは自然に消滅しますが、一部は持続的に感染し子宮頸がんの原因となります。

なぜなら、持続的にウイルスが感染できる場合があるからです。

性行為の経験が25歳未満以上で1度以上感染したことがある人は、子宮頸がんのリスクが高まります。



子宮頸がんの予防に有効なのは、

★ワクチン ★検診

定期検診の機会に1度以上女性のために「キャッチアップ接種」もあります！

Check!

HPVワクチンキャッチアップ接種

定期接種の時期に接種を missedした19歳〜24歳の女性を対象とした2025年3月までの無料接種が2度まであります！

対象年齢：19歳〜24歳未満の女性



2価・4価・9価の違いってなに？

HPVワクチンには現在3種類のワクチンがあります。

名	2価	4価	9価
名	サーバットクス	ガーザンル	シルガード9
対象できるウイルスの種類	2種類	4種類	9種類
費用	約5万円	約5万円	約10万円
定期接種	○	○	×

2023年4月から9月の接種時期に追加されました！

接種スケジュール



2023年4月〜2024年3月の接種期間

2023年4月〜2024年3月の接種期間

2023年4月〜2024年3月の接種期間

接種期間延長のお知らせ

2024年3月までの無料接種が2度まであります！



HPVワクチンについて

年間約1.1万人 が子宮頸がんに罹患

年間 約3千人 が死亡

30歳代までに約千人 が
がんの治療で 子宮を摘出



子宮頸がんからあなたを守る

HPVワクチン接種

▶ HPVワクチンを接種することで子宮頸がんの原因の50～90%を防ぐことができると言われています。

▶ 下記の対象者は無料でワクチン接種が可能となっておりますので、お住まいの市町村にお問い合わせください。

定期接種対象者	キャッチアップ接種対象者
小学6年生 ～高校1年生相当	1997年4月2日 ～2008年4月1日生まれ



愛知県



HPV「キャッチアップ接種」
2025年3月まで
対象者へ1回接種を促すための取組



チームもつワイ
びんがけのちから
のちからを伸ばそう

えいちぴーぶい

愛知県HPVワクチン 普及啓発シンポジウム

参加
無料

～知ってほしい。子宮頸がんで苦しまないためにできること。～

2024.6.30(日) 15:00～16:30

先着800名（参加無料） 申込期限：6月24日（月）
年齢、性別問わず、どなたでも御参加いただけます。
(手話通訳あり)

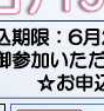
☆お申込みはこちらから



第一部 基調講演

「HPVってなにに」

高知大学医学部
臨床感染症学講座 教授
山岸 由佳(やまぎし ゆか)

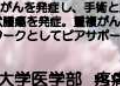


第二部

～メッセージ動画～

古村 比呂(こむら ひろ)
(俳優、一般社団法人HIRAKU
がんリンパ浮腫と共存 代表理事)

46歳で子宮頸がんを診断、子宮を全摘出。
術後は後遺症のリンパ浮腫を発症。5年後、再発と再再発を克服したものの、2023年1月、再々再発となる。自らの治療のかわり、がんサバイバーへの情報発信や電話相談など活動を行っている。



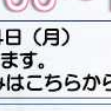
～パネルディスカッション～

山岸 由佳 (基調講演講師)

SKE48 松本 慈子 大村 杏
(LOVEあいちサポーターズ あいち広報大使)

平野 良子
(NPO法人 ミーネット ピアサポーター)

47歳で子宮頸がんを発症し、手術と放射線治療を経験。治療後、乳癌の悪性変状腫瘍を発症。腫瘍がんの後遺症と向き合いながら第二のライフワークとしてピアサポーター活動に取り組んでいる。



山田 享宏
(愛知医科大学医学部 疼痛医学講座 教授)

司会：堤 里砂 (アナウンサー)




HPVワクチンとは

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、性経験のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。子宮頸がんをはじめ、肛門がん、陰がん等、多くの病気に関わっており、特に、近年若い女性の子宮頸がん罹患が増えています。HPVワクチンは、HPVの感染を防ぐ有効な手段として子宮頸がんの予防方法の一つとして使われています。

ホームページはこちらから ➡

8

まとめ

- 事業開始後、HPVワクチン接種にかかわる診療科間の連携が構築できた。
- 拠点病院が中心となり協力医療機関・自治体との顔の見える関係が構築され、意見交換や情報共有が容易になった。

症例対応での連携や事例をともに学ぶことで相談支援・

医療体制が強化された

- 自治体との連携強化と厚労省・文科省の後押しにより、教育現場との連携が開始され、一部研修なども出来るようになった。
- 特に今年度で終了するキャッチアップ接種の期限（9月のエントリー期限）を踏まえ、自治体・医師会と連携を強化して啓発活動を促進している。

本事業の活動にご尽力いただいている先生方（敬称略）

宮城悦子、渡利英道、柳生一白、矢吹省司、井関雅子、北原雅樹、木村慎二、川口善治、
天谷文昌、鈴木富雄、小川千加子、鉄永倫子、山岸由佳、山浦健